

高山植物

何十年もの間、自家用車の乗り入れが禁止されているため、乗鞍岳の高山環境は守られてきました。この高山には、氷点下の冬の気温、強烈な紫外線、強風、そして水不足を生き抜く丈夫な苔や花をつける低木が絨毯のように敷き詰められています。冬の雪が溶け始めると、乗鞍岳の高山植物は爆発的な生命力を発揮します。雪に閉ざされた風景から、花が咲き乱れ緑豊かな草原へと、わずか1週間で変化します。

高山植物の多くは、約11,000年前に終わった氷河期の生き残りです。地球の気候が変化して低地が暖かくなると、冷涼な環境を必要とする種はどんどん高地に追いやられていきました。現在、これらの種の中には、氷河期の気候に似た長い冬と大雪が残る山頂という、極端な高地でしか見られないものもあります。

そんな希少な高山植物のひとつが、コマクサと呼ばれるケマンソウの一種です。和名はピンクの花の形が馬の頭に似ていることに由来します。小さくて儂げな花と、その羽毛のような青灰色の葉は、岩だらけの山の斜面の隙間に生えています。

ミネウスユキソウは、ヨーロッパアルプスのシンボルであるエーデルワイスの仲間です。白い優美な花を咲かせます。エーデルワイスのように、白い「花びら」（実際には植物の苞葉）に白い粉をまもったように見えることから、「峰の薄雪草」という意味で名付けられました。

同様に目を引くのは、イワカガミの縁取りされたピンクの花です。丸くて光沢のある葉と岩場に生息することから「小さな岩の鏡」と呼ばれています。また、観光客は英語でリンゴンベリー（学名：Vaccinium vitis-idaea）としてよく知られている「苔桃」（コケモモ）の白い鐘形の花も簡単に見つけることができます。

高山植物の花のベストシーズンは、7月から8月上旬ですが、シーズンは9月末まで続きます。